

講義コード	515105103															
講義名	基礎教養II EF															
(副題)																
開講責任部署	幼児教育科 (短大)															
講義開講時期	後期															
基準単位数	1															
時間	0.00															
代表曜日	金曜日															
代表時限	1 時限															
科目分類名																
科目分野名																
対象学部・年次																
必須/選択																
担当教員																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専任教員</td> <td>西田 直樹</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>専任教員</td> <td>久野 高志</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>専任教員</td> <td>設楽 紗英子</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>専任教員</td> <td>教務委員会 (短大)</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	専任教員	西田 直樹	指定なし	専任教員	久野 高志	指定なし	専任教員	設楽 紗英子	指定なし	専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし
職種	氏名	所属														
専任教員	西田 直樹	指定なし														
専任教員	久野 高志	指定なし														
専任教員	設楽 紗英子	指定なし														
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし														

## 授業の概要

### 【授業の概要】

短大の学びに加えて保育の現場で働いて行くために必要な「話す・書く・調べる」の3つの力を身につけます。

授業であつかう諸領域に対して関心を持って学び、的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけます。

授業は3パートに分かれており、3名の教員がオムニバス形式で担当します。

### 【授業の方法】

#### ①プレゼンテーションの方法

授業では、板書と配布印刷物を活用します。

#### ②授業形態

講義形式で方法を説明したのち、グループワークや実技（文昌の作成）を行います。

本科目ではアクティブラーニングを取り入れます。具体的には、「調べ、話し合い、文章や言葉で発表する」という事を行います。

#### ④課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、ワークシート（課題プリントを含む）を採点后、次回の授業時に返却し、解答解説や今後の注意点についての説明を行います。

## 授業の到達目標及びテーマ

### 【1 授業の目標とテーマ】

この授業は、本学に入学し半年間の授業と幼稚園での実習を経験した1年生が、「書く力」「議論する力」「調べる力」といった「学びの基礎」をさらに固めて成長して行くことを目標とした初年次教育です。

授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・Cパート「図書館活用法」の3つのパートから成り、3名の教員によるオムニバス形式を採ることで、幅広い知識を効果的に学んでいきます。

基礎教養Iに続く科目として、授業内容はレベルアップします。

### 【2 学習成果評価マトリックスとの関連】

学習成果における ①保育者観 ②知識・技能 ③人間性と協調性 が該当する。

特に②知識・技能を重視する。

(備考)

Aパート 「文章作法」文章力を向上させて就職試験の小論文にまで活用できる。

Bパート 「ディスカッション」ディスカッション能力を向上させて保育現場でも活用できる。

Cパート 「図書館活用法」図書館活用能力を向上させて保育者養成校での学習や実習に活用できる。

### 【3 ディプロマ・ポリシーとの関連】

本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「1. 諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている。」と「3. 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」を達成するための科目です。

### 授業計画表

回	担当教員	項目
第1回	Aパート「文章作法」（担当 西田）	A-1 小論文は「4つの引き出し」で書く
第2回		A-2 小論文「理想の保育士について」の書き方
第3回		A-3 小論文「少子化時代の保育について」の書き方
第4回		A-4 小論文「私が尊敬する人物」の書き方
第5回		A-5 最少試験「小論文」の傾向と対策
第6回	Bパート「ディスカッション」（担当 設楽）	B-1 現代の子どもを取り巻く環境について考える
第7回		B-2 現代の親子関係・家族関係について考える
第8回		B-3 男女共同参画社会について考える
第9回		B-4 子どもの食育について考える
第10回		B-5 保育者をめざす自分の生き方について考える
第11回	Cパート「図書館活用法」（担当 久野）	C-1 貴重本等から学ぶ印刷・出版の歴史
第12回		C-2 著作権についての基礎知識
第13回		C-3 図書館所蔵の児童文学作品を知ろう
第14回		C-4 「日本昔ばなし」と「世界おとぎばなし」
第15回		C-5 子どもに読み聞かせしたい絵本を見つけよう
第16回		期末試験（レポート試験）

### 授業時間外の学修

予習・復習については、各回授業の発表やワークシートの内容によって点検します。

各回の授業に臨むにあたり、授業計画に示した受魚う内容の予習・復習3～5時間程度行うこと。

### 実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

### ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
○	◎		○

### ルーブリック

評価	excellent	average	developing	unachieved

項目	優秀 ( )	平均 ( )	途上 ( )	未達 ( )
教材や授業課題の理解	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる。	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる。	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる。	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポート等への助言・新たな資料提供等の支援を行っている。
査する力 (予習を含む)	自ら進んで予習範囲を超えて調べるとともに、それを他者に説明することができる。	定められた予習範囲について自分の力で調べることができる。	定められた予習範囲について調べてはいるが、その理解にはあいまいな点が多く、不十分な美便がある。	定められた予習範囲について調べられない。もしくは内容が不十分である。
レポート力 (復習を含む)	与えられたテーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使ってレポート等を作成している。	与えられたテーマについて、授業で紹介した方法を使ってレポート等を作成している。	与えられたテーマにある程度沿って、授業で紹介した方法を使ってレポート等を作成している。	与えられたテーマに沿ったレポート等になっていないため、教員が添削等の支援をしている。

## 成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験	60%	
小テスト等	10%	
成果発表	10%	
授業への貢献度	10%	
レポート	0%	
その他		

## 課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題 (レポート等) について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の冒頭で解説、講評する	授業の冒頭で解説、講評する	授業の冒頭で解説、講評する

## ICTを活用した双方向型授業の内容

等	クリッカー、アンケート、小テスト
---	------------------

## アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60~100%程度のアクティブラーニングである
--------------------------------

## アクティブラーニングの内容

--	--	--

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用	実験観察・実習	授業前レポート（予習） 授業後レポート

## 教科書

毎回授業ごとにプリント（予習・本授業）を配布する。

## 参考書

各パートの担当者が授業の中で適宜紹介します。

## SDGsとの関連

に	4. 質の高い教育をみんな
う	17. パートナリーシップで目標を達成しよう

## 特記事項等

## ①実務経験のある教員

本科目は、Bパートにおいて 実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。

## ②科目ナンバリング

LIL1203

## ③オンライン授業の実施方法

Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリット式授業を行う

## 学生へのメッセージ

## 学生へのメッセージ

この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければならないものです。

15回の授業の中で、3名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。

1年生のうちに学びに関わる基礎的な能力をしっかりとつけて2年生の授業の授業や本実習の時に、きっとこの授業で学んだ成果を実感できるはずです。がんばりましょう。

## 研究室（訪問先等）

西田研究室（2212研究室） 久野研究室（2213研究室） 設楽研究室（2226研究室）

代表者（西田）の研究室は、212研究室です。

月・火・水・木・金が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

## 電話番号

028-667-7111（代表）

## 授業用E-mail

[nishida@sakushin-u.ac.jp](mailto:nishida@sakushin-u.ac.jp)

## 成績評価法

成績評価法（表形式）に同じ